



病虫害や凍霜害などの気象被害を受けることなく夏を迎え、適度な降雨と高温にも恵まれたことから、玉張り・糖度も良好な桃が収穫されました。また、町産桃「あかつき」が皇室献上品として県から指定を受け、平成6年から連続31回目を迎えることができました。「献上桃の郷」ブランドは、生産者の並々な努力と卓越した技術、そして脈々と受け継がれる情熱によって築き上げられ、その魅力は、町内外へますます広がりをみせています。

平年より11日遅い梅雨入りを迎えた6月下旬ごろ、早生品種「はつひめ」の収穫を皮切りに、桑折の桃のシーズンが始まりました。春、淡いピンク色の花に包まれていた桃畑も、光合成を懸命に行う緑色の葉が生い茂る姿に変わり、その間から、紅く色づく桃が顔を覗かせました。その瑞々しい風景は、桑折の夏の訪れを知らせてくれます。

町内では、9月中旬ごろまでの約3カ月間にわたり、数十種類もの桃が市場に並び、多くの人を楽しませます。今年は、



「桑折の桃が食べたい ——」

技術と情熱で育む一級品

桑折の桃を求めて、連日長蛇の列

桃シーズン到来とともに活気をみせるのが、町内2カ所の共選場。繁忙期には、約100人ものスタッフが作業し、桃の仕分けや箱詰め作業を行い、全国各地へ桑折の桃を出荷します。同じく、賑わいをみせるのが隣接する直売所。連日、早朝から長蛇の列ができるほどの人であふれ、駐車場が満車状態となる日も。今年は、町のシティプロモーションの成果調査とさらなる観光PRを推進するため、町職員によるアンケート調査と町内周遊型スタンプラリーの案内を掲載したホタピーうちの配布を直売所で実施しました。調査の結果、約6割が県外から来訪されており、その内5割が宮城県からの来訪者でした。また、全体の約8割の人が2回以上来訪されており、桑折の桃が愛されていることが分かる結果となりました。



及川さん家族（千葉県）

宮城県に住む親戚に勧められたのがきっかけで、5年以上前から毎年桑折の桃を買いに来ています。今年もおいしい桃が手に入り大変満足です。



最高品質の桃を厳選し、皇室へ献上

皇室に届ける献上桃の選果・箱詰りが7月22日、JAふくしま未来桑折総合支店で行われ、180個の桃が丁寧に箱詰めされました。当日朝に収穫された約12万個を光センサー選果機に通し、糖度（12度以上）や大きさ、着色で1次選果した600個の中から、さらに献上桃にふさわしい桃を県職員やJA関係者が手作業で厳選。数又清市代表理事組合長は「皇室への献上が続いていることは、生産者への何よりも励み。さらなる飛躍につながると確信している」と喜びを噛みしめました。

同日、高橋宣博町長は県庁を訪れ、佐藤宏隆副知事に朝採れの桃をお届け。佐藤副知事は「とてもおいしい。生産者をはじめ、共選場、運送、販売など流通に携わる人の力も、この美味しさにつながっている」と話しました。